安全データシート(SDS)

作成　2008年10月30日
改訂　2016年　6月　1日

1. 製品及び会社情報

製品名	レノリット ラバーグリース JP
会社名	フックスジャパン株式会社
住　所	東京都港区虎ノ門4－3－20　神谷町MTビル13階
電話番号	03－3436－8303
ファックス番号	03－3436－8301
推奨用途及び使用上の制限:	グリース

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外
可燃性／引火性エアゾール	分類対象外
支燃性／酸化性ガス類	分類対象外
高圧ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性物質および混合物	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性物質および混合物	分類対象外
水と接触して可燃性／引火性ガスを発生する物質および混合物	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分外
皮膚腐食性／刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分外
生殖毒性	分類できない
標的臓器／全身毒性(単回暴露)	分類できない

標的臓器／全身毒性(反復暴露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	区分外

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)	分類できない
水生環境有害性(慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類対象外

GHSラベル

絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし

注意書き

予防策	本安全データシート(SDS)を読み理解するまでは取り扱わないこと。 容器を密封し、取扱い時にはこぼれないように注意すること。 熱、火花、高温体等の着火源から遠ざけること。禁煙。 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器、火花の出ない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。取り扱う際は、導電性の良い金属容器を使用し、必ずアースをすること。 屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。 個人的用保護具や換気装置を使用し、暴露を避けること。 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 この製品を使用するときは、飲食または喫煙しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 空容器に圧力をかけないこと。(破裂のおそれがあるため) 容器を溶接、加熱、穴あけ又は切断しないこと。 (残留物が爆発・発火するおそれがあるため) 環境への放出を避けること。
対応	火災の場合、消火には粉末，泡又，炭酸ガス消火器を使用すること。 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。 眼に入った場合、充分に水洗し、直ちに医師の診断を受けること。 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断／手当てを受けること。 医師の診断が必要な場合、製品容器，ラベル，SDSを手元に用意すること。 漏洩した場合、漏洩物を回収すること。
保管	直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。 容器を密閉し、保管場所に施錠すること。 子供の手の届かない場所に保管すること。
廃棄	製品や空容器の廃棄を外部に委託するときは、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国・地域情報	15項を参照の事

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分	混合物
化学名／一般名	シリカ
安衛法　表示/通知対象物	該当
毒劇法	非該当
PRTR法	非該当
CAS. No	7631－86－9
濃度範囲	10%未満

その他、企業秘密のため明記しない

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気の場所に移す。体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。 呼吸困難または呼吸が止まっている場合には、衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う速やかに行う。直ちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	石鹸水で充分に洗浄する。 外観に変化が見られたり痛みが続く場合は、速やかに医師の診断を受ける。 衣服に付着した場合は、直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の石鹸水で洗う。 汚染された衣服を再利用する場合には洗濯する。
目に入った場合	清浄な水で数分間注意深く水洗する。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外した後に、洗浄を続ける。 最低15分間洗浄した後、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	無理に吐かせないで、速やかに医師の手当てを受ける。 口の中が汚染されている場合には、水で十分洗う。 被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはならない。
最も重要な徴候及び症状	誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し、吐くことがある。 嘔吐中に、飲み込んだ本品が肺に吸入されると、化学性肺炎を起こし、致命的となることがある。
応急措置をする者の保護	救助者は、保護手袋、保護眼鏡等の適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤	炭酸ガス、泡、砂、霧状の水、粉末。
使ってはならない消火剤	棒状の水の直接放射は火災を拡大するおそれがある。
特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。 高温の金属表面等に接触した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。
特有の消火方法	火元への燃焼源を断つ。 初期の火災には粉末、炭酸ガス等を用いる。 大規模火災の際には、泡消火器を用いて空気を遮断することが有効である。 周囲の設備などに散水して冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護	消火作業者は自給式空気呼吸器等の呼吸保護具を着用して消火活動を行う。

6. 漏出の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスク等)を着用する。
多量の場合、人を安全な場所に退避させる。
必要に応じた換気を確保する。
消火用器材を準備する。
作業の際には、消火用保護具を着用する。

環境に対する注意事項　漏出した製品が、下水、排水溝へ流出、または地下へ浸透する事を防止する。
万一公共用水域等に流出した場合等、必要がある時は関係行政機関に連絡する。
海上の場合、展張船によるオイルフェンスの展張は危険防止のため、蒸気の及ばない範囲で行う。
止むを得ず危険範囲に近づく場合は、蒸気の拡散状況を把握し(風向、風速、ガス濃度等)安全を確認する。

回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材

少量の場合　吸着剤(土・砂等)に吸着させ密閉できる容器に回収する。
大量の場合　多量の場合、人を安全な場所に退避させる。
盛り土で囲って河川等への流出や地下への浸透のない安全な場所に導いてからドラム等に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
局所排気・全体排気　蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
注意事項　眼および皮膚への接触を避ける。
飲み込まない。
子供の手の届かないところに置く。
接触回避　炎、火花また高温体との接近を避ける。(禁煙)
安全取扱注意事項　作業場の換気を十分行う。
必要に応じて、換気装置を取り付ける。
換気装置を取り付ける場合には防爆タイプを用いる。
保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

保管

技術的対策　爆発を伴って残留物が発火することがあるため、製品容器は溶接、加熱、穴あけまたは切断をしない。
盗難の恐れのない場所に保管する。
圧力をかけると破裂することがあるため、空ドラムに圧力をかけない。
混触禁止物質　ハロゲン類, 強酸類, 酸類, アルカリ類, 酸化性物質
保管条件　密閉容器に入れ、直射日光や雨水を避けて涼しくて換気の良い場所に保管する。
容器包装材料　製品使用容器に準ずる。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度　規定なし

許容濃度

日本産業衛生学会　該当しない(基油として)
時間荷重平均　2mg/m^3(シリカ)

ACGIH　該当しない(基油として)

	時間荷重平均　10mg/m^3(シリカ)
設備対策	ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
衛生対策	濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。
保護具	
呼吸器の保護具	必要に応じて防毒マスク
手の保護具	保護手袋(耐油型)
目の保護具	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	労働衛生保護衣、保護長靴(耐油型)、保護前掛け(耐油型)

9. 物理的及び化学的性質

形状	半固体
色	桃赤色
臭い	微臭
沸点 (℃)	データなし
凝固点 (℃)	データなし
分解温度 (℃)	データなし
pH(原液)	pHを示さない
引火点　COC(℃)	200以上
発火点 (℃)	データなし
爆発限界	データなし
蒸気圧 (Pa)	データなし
蒸気密度	データなし
密度　15℃(g/cm^3)	0．9
溶解性・水溶解性	難溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度 (℃)	データなし
蒸発速度	データなし
燃焼性	あり
滴点 (℃)	200以上

10. 安定性及び反応性

安定性	常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	混合接触危険物質との接触を避ける。 高温下にすること
混触危険物質	ハロゲン類，強酸類，酸類，アルカリ類，酸化性物質
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性	経口　LD_{50}(マウス)　10000mg/kg 以上(基油)
皮膚腐食性・刺激性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	該当しない(ACGIH，日本産業衛生学会等より)
生殖毒性	データなし

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露	データなし
特定標的臓器・全身毒性－反復暴露	データなし
吸引性呼吸器有害性	40℃の動粘性率が20．5mm^2/s以下の炭化水素でありヒトの摂取により肺への吸引を起こし、その結果油性肺炎または化学性肺炎をもたらすとの報告がある。

本製品は混合物のため、混合物のGHS分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

12. 環境影響情報

製品としての環境影響試験は行っていない。

生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	オゾン層破壊物質は不含有

13. 廃棄上の注意

廃油、汚泥等の廃棄、埋め立て、下水道や河川などの放流は絶対に行わない。処理に当たっては、自社で適切に行うか、又は廃棄物処理業者に委託して行う。
御使用になる地域の廃棄規制を調査し適切に実施する。
投棄禁止。

残余廃棄物	下水、排水溝には絶対に流さないこと。
汚染容器及び包装	空になった容器を廃棄するときには、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類	非該当
国連番号	非該当
品名（国連輸送名）	非該当
容器等級	非該当
海洋汚染物質	非該当

国内規制

陸上輸送	消防法の規定に従う
海上輸送	船舶安全法の規定に従う
航空輸送	航空法の規定に従う
輸送の特定の安全対策及び条件	堅牢で容易に変形、破損しない容器に入れて輸送する。 運搬に際しては、容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

消防法		非危険物
毒劇法		非該当
PRTR法		非該当
安衛法	:危険物	非該当
安衛法	:表示/通知対象物	該当

安衛法	:有機則	非該当
安衛法	:特化則	非該当
海洋汚染防止法	:油分排出規制	該当
下水道法	:鉱油類排出規制	該当
水質汚濁防止法	:油分排出規制	該当
廃掃法	:産業廃棄物規則	該当

その他、お使いの地域における地方条例等の法規制等にも注意が必要。

16. その他の情報

記載内容の問い合わせ先

会社名	フックスジャパン株式会社
住　所	三重県伊賀市大内字三郎谷408－3
担当部門	技術部
電話番号	0595－20－1114
ファックス番号	0595－20－1056

当書類中の略号

安衛法	労働安全衛生法
表示/通知対象物	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
PRTR法	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律施行令(化管法)
毒劇法	毒物及び劇物取締法

改訂履歴

作成　2008年10月30日
改訂　2009年　5月　7日
改訂　2009年10月　1日
改訂　2009年12月　2日
改訂　2010年10月22日
改訂　2012年　8月　8日
改訂　2012年　6月　3日
改訂　2015年　6月　5日
改訂　2015年12月17日
改訂　2016年　3月　4日
改訂　2016年　6月　1日

引用文献

自社データ
労働安全衛生法令要覧
製品安全データシートの作成指針(社団法人　日本化学工業協会)
JIS　Z　7252　:GHSに基づく化学物質等の分類方法
JIS　Z　7253　:GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル，作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ(化学工業日報社)
許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会(2006)
国産業衛生専門会議(ACGIH)　“TLVs and BELs 2004”(2004)

International Uniform Chemical Information Database (IUCLID)(2000)
IARC suppl.7(1987)
IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans(1987)
EC 理事会指令「67/548/EEC」の附属書 I「危険な物質リスト」
WHO/IPCS:「環境保護クライテリア(EHC)」(1982)
GHS混合物分類判定システム

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発見や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定事項にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また注意事項等は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

また、現場責任者は取扱いについて十分に現場作業者の方へ教育を行って下さい。

[会社情報]

販売者：熊本中央スズキ自動車販売(株)
所在地：熊本県熊本市北区飛田4-6-51
TEL:096-345-4102